



第20回記念日本脊椎・脊髄神経手術手技学会学術集会

Spine Leader's Lecture C (SLL-C-II-2)

最小侵襲脊椎安定術 (MIST) における 低被曝化への試み

●日時 2013年 9月6日(金) 11:25~11:55

●会場 第2会場<名古屋観光ホテル 3F 那古(東)>

座長

社会医療法人信愛会 巖生会脳神経外科病院 信愛会脊椎脊髄センター センター長
寶子丸 稔 先生

演者

慶應義塾大学医学部 整形外科 講師
石井 賢 先生



最小侵襲脊椎安定術 (MIS_t) における 低被曝化への試み

日時：2013年9月6日(金) 11:25~11:55
会場：第2会場<名古屋観光ホテル 3F 那古(東)>

座長

社会医療法人信愛会 暇生会脳神経外科病院 信愛会脊椎脊髄センター センター長
寶子丸 稔 先生

演者

慶應義塾大学医学部 整形外科 講師
石井 賢 先生

最小侵襲脊椎手術はMEDやPEDに代表される除圧術と最小侵襲脊椎安定術 (Minimally Invasive spine Stabilization: MIS_t: ミスト) に大別される。特にMIS_t手技は、経皮的挿入椎弓根スクリュー (Percutaneous Pedicle Screw: PPS) を用いたMIS-TLIFやMIS-Long Fusion、経皮的後彎矯正術 (BKP)、Cortical Bone Trajectory (CBT) 法、XLIFなどの手技の普及により、ここ数年で標準的な手技になりつつある。一方でMIS_t手技にはその特性から術中イメージによる透視画像が必要不可欠である。放射線被曝は患者のみならず医療従事者にとっても重大な傷害を招きかねない。そこでわれわれはMIS_tの代表的手技であるMIS-TLIFにおける医療従事者の放射線被曝量をprospectiveに測定し、その安全性を検証した。対象は1-2椎間MIS-TLIFを施行した連続する15症例である。放射線被曝量は、術者と第1助手のプロテクター表面の各部位 (甲状腺・胸部・生殖器・右中指) とプロテクター内 (胸部) に設置し測定した。その結果、1症例あたりの平均照射時間は43.2秒で、平均被曝線量 (実効線量) は術者と第1助手で各々0.05mSv未満と0.03mSvと極めて低値で安全域に留まっていた。本講演ではMIS_t手技において医療従事者の安全確保の観点より術中放射線の基礎知識と演者が取り組んでいる低被曝化への試みについて言及する。

講師
略歴

石井 賢 先生

慶應義塾大学医学部 整形外科 講師

慶應義塾大学医学部 (1993年 卒業)

慶應義塾大学病院 (1993~1999年)

ジョージタウン大学 (2000~2002年)

ハーバード大学マサチューセッツ
ゼネラルホスピタル (MGH) (2002~2003年)

